

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.4

令和4年6月22日

『生き生き学校2』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



With コロナの教育活動

全国の新規コロナ感染者数がこのところ減少傾向にあります。文科省からは、熱中症対策として、小中高校での体育の授業や運動部活動中、登下校時は、児童生徒にマスクを外すよう指導することを求める通知が出されました。岡本小学校でも、時と場、活動内容に応じた感染症対策を講じながら、子どもたちにとって必要な学びを進めていきます。

6月16日(金)、なかよし班活動が始動しました。「なかよし班」とは、1年生から6年生の異学年による活動グループの名称です。昨年度までは、感染予防のため異学年交流を2学年に限定していたので、1～6年生全員がこうして集い、日常的な清掃活動で顔をそろえるのは久しぶりです。

どの子も緊張した面持ちで、各集合場所に集まりました。6年生の計らいにより、自己紹介に遊び的要素を加え、『遊びを通して互いを知ろう』という取り組みが行われました。あるグループは、『なんでもバスケット』を通して交流を深めました。

まず、指示役のリーダーが

「自分の名前に『か』がついている人」

と言うと、該当の子どもたちが立ちます。そして、一人ずつ、自分の名前と好きな食べ物の紹介をします。それを聞いた周りの子どもたちは、拍手をして発言に対する勇気を称え、その後席を移動するというアクティビティを何度か繰り返しました。ゲームの終盤にはすっかり互いの心が打ち解け合っていました。

昨今の子どもたちは「人との関わりが希薄である」と言われますが、そもそも、子どもというのは「人と関わりたい」という欲求をもって



子どもたち同士が助け合い、教え学び合う関係が生まれやすい異学年集団の良さを生かし、人との関わり方や自己の役割を責任をもってやり遂げることを学ばせたいと考えます。

この活動を見守る教師たちは、「なかよし班活動を通して、子どもたちにどんな力をつけていくのか」という目的について共有し、6年生の自治的な活動を支えるために、時に応じて必要な指導をしながら、つかず離れずの適度な距離感を保ち、子どもたちを見守っていました。

子どもたちの活躍の場、そして子どもたちの学校での居場所が、また一つ増えました。

外部講師による学び

～4年生 総合的な学習の時間より～

水城 雅治氏をお迎えし、ご講演をいただきました。水城氏は、50歳ころから視力がなくなりましたが、趣味であるギターを続け、この日は何曲かの最新曲を披露してくださり、子どもたちも口ずさみながら、共に楽しい時間を過ごしました。

「目が見えない人は楽しくできないと思っていたけれど、水城さんは自分の好きなことをしている」という感想が子どもから寄せられました。互いを知ることの大切さを学んでいます。



～1年生 音楽科の授業より～

大村楽器さんから講師をお迎えし、鍵盤ハーモニカの導入の授業をしていただきました。正しい息の入れ方や指遣い、お手入れの方法など、多くの大事なポイントを学びました。

「1年生になったばかりなのに、話の聴き方がとても上手です」

と、帰り際、講師の方からお褒めの言葉をいただきました。

今後は、学びを実践に生かしていきます。



学校の応援団

～おやじの会～

6月19日(日)、市内一斉美化デーに合わせて、第1回おやじの会の皆様が集結し、環境整備作業に汗を流しました。この日は、岡本小学校区青少年健全育成会の皆様にもお越しいたごき、共に汗を流しました。

普段なかなか手の行き届かない、プール裏や体育倉庫前の除草作業、側溝の泥上げ等をしてくださいました。今年一番の暑さの中、15名の皆様のご尽力により、本当にきれいになりました。



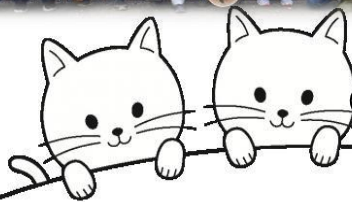
～花いっぱいボランティア～

6月10日(金)、今年度第1回めの花いっぱいボランティアの活動が行われました。総勢9名(スクール・サポート・スタッフを含む)の方々にお集まりいただき、今回は、昇降口前や職員室前の花壇の手入れや草取り、ウクライナ支援のひまわりの種植えなどをしていただきました。今ちょうど、ひまわりが芽を出し、かわいい双葉に成長しています。どんな花を咲かせるのか、子どもたちと一緒にワクワクしています。ありがとうございました。

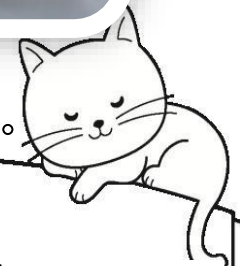


～寄贈・寄付の紹介～

先日、篤志家2名の方より、「子どもたちの教育活動のために」と、塩分タブレット90袋のご寄付と、紙芝居の木枠の寄贈がありました。大切に活用させていただきます。



わたしのひとりごと…



「校長先生、見て見て! ピーマン、大きいでしょ!」
 先日、2年生の子どもたちが、とれたての野菜を自慢げに見せてくれました。

別の日、1年生の教室を覗くと、引き算の練習問題をしているところに遭遇しました。引き算が少々苦手な子どもに、担任の先生が算数ブロックでヒントを与えていました。答えがわかったその子は、嬉しそうに答えをノートに書いていました。

またある日、5年生が学級活動の時間に、自分の家庭学習について見直そうという学習をしていました。その際、子どもたちの2年先輩にあたる中学生のインタビュー動画が流れました。中学生は、こんな風に語りました。

「中学になると、授業の進度がものすごく速い。だから、その日に学習したことをもう一度、家で復習することが大切です。」
 「中学では定期テストがあります。テストの範囲が広いので、自分で計画して勉強するということが大切になります。」
 5年生の子どもたちは、尊敬のまなざしで、中学生の話を聞いていました。

子どもにとって「学ぶ」とは、いったいどんな意味があるのでしょうか。

低学年の頃はきつと、新しいことに対する興味関心が高く、「学ぶことそのもの」や「できるようになること」が楽しいのだろうと思います。

高学年になると、だんだんと「るのために」という目的意識が芽生え、将来の明るい自分像を描くことにつながっていくのだろうと思います。

とはいえ、成長の折々には、「なぜ勉強するの?」と立ち止まったり、「勉強なんてやりたくない」と投げやりな気持ちになってしまったりすることがありますね。

そんなときには、「勉強しなきゃだめだよ」的な支援ではなく、その子に合わせた「足場づくり」が必要です。その子が学習に挑戦する際に、学習の難易度に合わせて「足場」をつくって手助けをすることが大切です。「足場」は、その子によって異なります。

あなたのお子さんには、どんな「足場」が必要でしょうか。